

（３）情報リテラシー教育における図書館の役割と実証的展開

図書館情報メディア研究科 歳森 敦

図書館情報メディア研究科 逸村 裕

図書館情報メディア研究科 宇陀則彦

システム情報工学研究科・学術情報メディアセンター 佐藤 聡

システム情報工学研究科・学術情報メディアセンター 古瀬一隆

附属図書館協力者 藤田祥子, 大曾根美奈, 安島明美, 金井和男

1. 本プロジェクトの問題設定

本プロジェクトは平成20年度から継続して行われているもので、筑波大学において教養教育の一環として開設されている総合科目において、情報リテラシー教育を目的とする演習科目「知の探検法」を開講し、ここでの教育実践を通じて以下の課題に取り組むことを目的としている：

- ・筑波大学における情報リテラシー教育のあり方の検討
- ・情報リテラシー教育に対する図書館の関与の内容・バランスの検討
- ・附属図書館職員による講師担当制の試行と評価
- ・実践の反省にもとづく現行コースウェア改訂
- ・コースウェアのe-learning教材化

2. 教育実践

宇陀則彦（図書館情報メディア研究科・准教授）が平成20年度に引き続き、当該科目のオーガナイザを勤めた。平成21年度のプログラム・担当講師を表1に示す。教室の拡張に伴って21年度から受講定員を40名から80名に変更したこともあり、受講者数は34名（登録47名；20年度は登録18名，受講14名）と前年の2.4倍に増加したが、依然として定員の半数にも満たないことが大きな問題と言える。受講者の年次別内訳は1年次24名，2年次4名，3年次4名，4年次2名の構成であり，1年次が7割を占めている。

受講者の受講動機を要約すると表2のようであり，自分の情報検索能力を拡大するため比較的強い動機を持って受講している学生が半数程度を占めている。研究志向のニーズに対しては，全学類を対象とする一般的な内容で構成しているため，受講者の期待には十分応えていない可能性がある。

3. 受講者の評価

総合科目に対して共通に行われている授業評価の結果は表3のようであり，34名の受講者中23名が回答した。前年までは多くの項目で大半から肯定的評価を受けているのみならず，ほとんどの項目で「大いにそう思う」を選択する者が過半であり，受講者が高いレベルで肯定評価していたが，人数の増加に伴って「大いにそう思う」の比率が減少したと言える。

受講理由を確認する質問（この授業を受講することに決めた一番の理由は何ですか）に対して，「内容に興味があるから」が14名（60.9%）でもっとも多く，「専門科目の理解に役立ちそうだから」と「単位がとりやすそうだから」が共に4名（17.4%）である。

満足度を確認する質問（私にとってこの授業は総合的に満足できるものであった）には，「大いにそう思う」が4名（17.4%），「そう思う」が17名（73.9%）と91.3%が満足を示しており，学生からの評価は十分に高いと言えるが，より発展的な学習意欲（この授業により，新しい知識や考え方が修得でき，さらに深く勉強し

たくなった)は「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせて82.6%に過ぎず、受講者の学習意欲を引き出す工夫がさらに必要である。

授業担当者の話し方や授業の理解度については、前年より評価が下がっており、教室環境の変化や人数の増加に対して対応が十分でなかった可能性がある。一方、前年に授業の進行速度についての評価が相対的に低かったことを受けて内容の精選や講義・演習比率を調整した結果、「速すぎた」「やや速すぎた」を選択した回答者が14名中6名(42.9%)から23名中5名(21.7%)に改善した。

4. 今後の課題

本科目は定員(80名)に対して58.8%の登録者しかいないことから一段の受講者増を図らねばならないこと、21年度末に行われた電子図書館システムの更新に伴ってテキストの大幅見直しが必要であること、23年度からの総合科目の見直しの中で初年次教育プログラムとしての位置づけを期待されていることなどから、平成22年度も継続した活動が必要である。

表1 授業計画

	講義題目	講師	講義概要
1	知の探検に出かける	宇陀則彦	イントロダクション
2	一般事項を調べる	宇陀則彦	サーチエンジンを使って一般的な事項を調べる
3	図書を探す	藤田祥子*	書誌データベースを使って図書の探し方を学ぶ
4	雑誌を探す	大曾根美奈*	冊子体雑誌および電子ジャーナルの使い方を学ぶ
5	論文を探す(1)	安島明美*	国内論文の探し方を学ぶ
6	論文を探す(2)	金井和男*	海外論文の探し方を学ぶ
7	レポートの書き方	宇陀則彦	レポートと論文の違いや引用の仕方を学ぶ
8	専門情報を調べる	辻慶太	専門機関の情報源を知る
9	公的情報を調べる	辻慶太	政府情報や公的機関の情報資源を知る
10	課題発表	辻慶太	受講者それぞれが設定した課題を調べ、発表する
11	課題発表	宇陀則彦	受講者それぞれが設定した課題を調べ、発表する

*は図書館職員

表2 受講の動機(レポートからの抜粋)

私はこの総合科目を、卒業研究を書く際に生かせると思いとることにした。…検索力は、研究者のスキルの一つだと考えるので、その点をこの授業中に磨けたらいいと思う。(1年)
資料を集めることは、苦手としていた分野なのでレポートをきれいに書けるようになりたいです。(1年)
私はレポートを書くのが苦手、この授業ではレポートの正しい書き方を教えてくれるとシラバスに書いてあったので、この機会に克服しようと思い、この授業を取ってみました。…(1年)
…大学全入時代と呼ばれるこの時代、周りにもモチベーションの低い人が多くて残念に感じています。…まだレポートを課す授業は殆ど経験していないのでその話はあまり実感がわいていませんが、卒業研究にも通じると考えると一生懸命(?)受けたいと思います。パソコンも弱いので、その強化もしてくださるとありがたいです。(1年)
…検索は他の人と比べても日々の勉強で使うことが多い。今はプログラミングをやることが多く、その際には画面の半分は常に検索用のブラウザを開いているほどだ。…(1年)

…自分の専攻の最先端の知識やその分野のトップの人たちの論文や考え方を学ぶことは、自分の大学における勉強で必要不可欠になってくると思います。この授業では、そうした既存の技術や研究の資料をよりよいものを効率的に検索し、自分の考え方を膨らませて、研究に生かしていけることを期待しています。…（１年）
…これまで総合科目を受講してきたが、専門知識としてすぐ利用できるものは少なかった。なるべく今後役立てる見込みの大きい科目を求めていたため、演習を伴い全般的に応用することができそうなこの科目を受講した。…（１年）
…内容が自分の役に立ちそうだというものもあるが、二単位取得できることやテストがないという、あまり好ましいとは言えない理由で選んでしまった部分もある。…（１年）
大学に入り、情報の分野でこれまでに自分が触れてきたものよりはるかに深いものに触れる機会がとて増えました。内容が深くなってくると必然的に参照される絶対量が減るので、これまでのように誰かがまとめたwebページだけでは内容が最新でなかったり、不足していたりすることも多くなるように感じます。ゆえに私はこの講義で、より学術的な資料（論文など）までを網羅する、情報の検索能力が養えることを期待しています。（１年）
…ずっと図書館でボランティアをしており、図書館や知識情報などにも興味があるので、この領域の授業が履修してみたいと思っている。…（１年）
…「取材の仕方」というトピックを目にすると全く思っていませんでした。…取材の仕方に対する内容が今後もあるようであればそこにも更に期待を持てるな、と感じました。（１年）
…この科目では、やはりレポートの書き方がとても楽しみです。１・２学期にいくつかレポートを書いてみて、分からないことがあったりうまく書けないことがあったので、そこを解消して行けたら良いと思っています。…（１年）
よい発表の仕方（口頭・論文）を学びたい。筋の通った一貫性のある研究をするためにどのような方法を用いればいいのか、また最終的に、効果的に他の人にその情報を流すための手段を知りたい。（１年）
…Googleをはじめ、図書館やCiNiiで資料を搜してみても、なかなか思うように見つからない。…（１年）
この科目を受講した理由は、先輩からの薦めによるところが大きい。この科目をまじめに受講すれば、今後レポートを書くときに大いに役立つということを言われたので受講を決めた。…（１年）

表３ a. 学生による授業評価結果（１）

上段 21年度本科目受講者の回答数（人） 中段 20年度本科目受講者の回答数（人） 下段 3学期全科目全回答者3600名の参考値（％）	大い そ思 思	に う う	そ 思 思	う う う	は わ い	全 そ 思 な	く は わ い	計
4. 私はこの授業に意欲的に取り組んだ。	0	19	3	1	23			
	6	6	2	0	14			
	21.1%	63.6%	13.4%	1.9%				
5. この授業はシラバスに沿って計画的に行われていた。	6	16	1	0	23			
	7	6	1	0	14			
	31.3%	62.4%	5.6%	0.6%				
6. 授業担当者の話し方は聞き取りやすかった。	2	17	4	0	23			
	7	6	1	0	14			
	27.9%	60.2%	10.3%	1.5%				
7. この授業の内容はよく理解できた。	0	20	3	0	23			
	5	8	1	0	14			
	19.0%	63.2%	15.8%	2.0%				
この授業における教材・資料の提示（板書、スライド、 8. OHP、ビデオ、DVD、パソコン、教科書、プリントなど）が 理解の促進に効果的であった。	10	13	0	0	23			
	9	5	0	0	14			
	31.9%	55.6%	11.1%	1.3%				
9. 授業担当者の話し方に熱意が感じられた。	1	14	8	0	23			
	4	9	1	0	14			
	33.4%	57.5%	8.2%	0.9%				

10.	この授業により、新しい知識や考え方が修得でき、さらに深く勉強したくなった。	7	12	4	0	23
		8	5	1	0	14
		28.7%	56.7%	12.9%	1.7%	
11.	私にとってこの授業は総合的に満足できるものであった。	4	17	2	0	23
		9	5	0	0	14
		29.1%	58.3%	11.0%	1.6%	
12.	この教室（体育施設、演習室、講堂などを含む）の設備は十分に整備されていた。	14	8	1	0	23
		9	5	0	0	14
		26.6%	58.9%	12.8%	1.6%	

表 3 b. 学生による授業評価の結果（2）

		速 ぎ	す た	や 速 すぎた	や 適 切 で あ っ た	や 遅 すぎた	遅 ぎ	す た	計
13.	この授業の進行速度は適切であった。	0		5	16	2	0		23
		2		4	8	0	0		14
		5.7%		18.6%	73.4%	2.2%	0.1%		
		多 ぎ	す た	や 多 すぎた	や 適 切 で あ っ た	や 少 な すぎた	少 な ぎ	す た	
14.	この授業の受講者数は適切であった。	0		3	19	1	0		23
		1		1	11	1	0		14
		8.7%		26.2%	61.7%	2.9%	0.5%		